

令和4年11月29日

【訂正とお詫び】ニュースリリースの訂正について

2022年11月8日（火）15時に発信した以下のニュースリリースの内容について一部訂正がございました。訂正した内容を再度リリースさせていただくとともに、関係者各位の皆様には深くお詫び申し上げます。

◆対象ニュースリリース

令和4年11月8日（火）15時発信のニュースリリース

「令和4年度モーダルシフト取り組み優良事業者の受賞者を決定～大賞は三井倉庫ホールディングス株式会社～」

◆訂正内容

令和4年度モーダルシフト取り組み優良事業者 公表・表彰の概要について、以下の部門賞に記載誤りがありました。

（正）

- ③新規開拓部門 株式会社日立物流
- ④有効活用部門 株式会社日陸（現：NRS株式会社）

（誤）

- ③新規開拓部門 株式会社日陸
- ④有効活用部門 株式会社日立物流

以下、内容訂正後のニュースリリースとなります。

以上
事務局 島田

令和4年度モーダルシフト取り組み優良事業者

公表・表彰の概要

1. モーダルシフト最優良事業者賞（大賞）

被表彰者：三井倉庫ホールディングス（株）

功績事項：建設機械の海上輸送へのモーダルシフト

三井倉庫ホールディングス（株）は、九州から北海道への建設機械（以下、建機）の輸送について、福岡から敦賀までのルートをトラック輸送から船舶を利用した海上輸送に転換し、全輸送行程において90%のモーダルシフトに成功した。

建機は貨物自体の自重が重く、背も高いため、コンテナやウィングトレーラーに積載して輸送することが困難なため、本取組みではドライバーが建機を自走させて積卸を行うRORO船への2回の乗り継ぎに加え、建機のトン数に応じた荷役、車両タイプ、ドライバーを用意するといった工夫をこらし、モーダルシフトを実現した。

また、都度異なるオペレーションでも均等なサービス品質を保つために一貫輸送手配を行っており、環境負荷低減だけでなく、建機の安全な輸送の継続に対して範となる取組みとなっている。

2. モーダルシフト取り組み優良事業者賞

① 実行部門

被表彰者：山九（株）

功績事項：全社的な幹線区間の輸送において、鉄道・海運の利用比率が40%超を達成。

山九（株）は、幹線区間における貨物総輸送量のうち鉄道・海運の利用比率が40%超を達成した。

被表彰者：日本石油輸送（株）

功績事項：全社的な幹線区間の輸送において、鉄道・海運の利用比率が40%超を達成。

日本石油輸送（株）は、幹線区間における貨物総輸送量のうち鉄道・海運の利用比率が40%超を達成した。

被表彰者：日本通運（株）

功績事項：全社的な幹線区間の輸送において、鉄道・海運の利用比率が40%超を達成。

日本通運（株）は、幹線区間における貨物総輸送量のうち鉄道・海運の利用比率が40%超を達成した。

② 改善部門

被表彰者：住鋳物流（株）

功績事項：全社的な幹線区間の輸送において、海運の利用比率が40%を超えると同時に、前年度比率を1%以上上回る実績を達成。

住鋳物流（株）は、令和3年度の全拠点間の幹線区間における輸送量について、モーダルシフト輸送比率が表彰基準の40%超を達成した。さらに、令和2年度において85.8%であった比率を、令和3年度においては87.1%を達成し、モーダルシフトを一層推進させた。

被表彰者：センコー（株）

功績事項：全社的な幹線区間の輸送において、鉄道・海運の利用比率が40%を超えると同時に、前年度比率を1%以上上回る実績を達成。

センコー（株）は、令和3年度の全拠点間の幹線区間における輸送量について、モーダルシフト輸送比率が表彰基準である40%超を達成した。さらに、令和2年度において74.9%であった比率を、令和3年度は76.1%に上げ、モーダルシフトを一層推進させた。

③ 新規開拓部門

被表彰者：(株) 日立物流

功績事項：モーダルシフトの実施により、効率的な輸送を実現

日立物流グループの日立物流コラボネクスト(株)は、神奈川県から佐賀県へトラックで実施する化粧品輸送について、同じグループ内の(株)バンテックが運用する内航船を利用した海上輸送にモーダルシフトした。

トラック輸送からトレーラー輸送への車格変更で積みきれなくなる貨物については、港近隣のデポに持ち込み、他貨物と混載して海上輸送することで、全量をモーダルシフトすることを可能とした。

また、内航船欠航が見込まれる場合には陸送への切替えを行う業務フローを整えて、安定的な輸送体制を構築した。

当該輸送はバンテックが実施する自動車部品輸送の復路部分を有効活用することで、ラウンド運行の推進、船舶積載効率の向上も実現した。

被表彰者：山九(株)

功績事項：合成樹脂および副資材の海上輸送へのモーダルシフトを実現

山九(株)は、2件の海上輸送へのモーダルシフトを実現した。

1. 千葉県から広島県への合成樹脂および副資材の輸送について、トラック輸送からコンテナ船を利用した海上輸送に転換。輸送途上での荷崩れが懸念されたため、1パレット当たりの積載枚数の変更、積載効率を落とさない枚数を荷主と検討し、年間81%のCO₂削減と約2,000時間のドライバー運転時間を削減することに成功した。
2. 神奈川県から大阪府への合成樹脂および副資材の輸送について、トラック輸送からRORO船を利用した海上輸送に転換。荷主と検討を重ね、トレーラーにフル積載できる荷姿・数量を選定した。また現行のトラック輸送からトレーラーシャーシを活用することで、トラック約2台分の物量を1回で運ぶことが可能になり、年間45%のCO₂削減と約1,000時間のドライバー運転時間を削減することに成功した。

被表彰者：鈴与(株)

鈴与カーゴネット(株)

功績事項：空缶容器の海上輸送へのモーダルシフトを実現

鈴与(株)、鈴与カーゴネット(株)は、佐賀県から兵庫県への空缶容器の輸送について、トラック輸送からフェリーを利用した海上輸送に転換した。年間56%のCO₂排出量を削減するとともに、トラックドライバーの運転時間について約4,000時間以上の削減に成功した。また、さらなるCO₂削減の取り組みとして、全社的にトレーラー(シャーシ)保有台数を増やし、荷主に車両の大型化及び海陸一貫輸送による物流改善を積極的に提案している。

④有効活用部門

被表彰者：F-LINE（株）南関東支店 マルチモーダルサービスセンター
功績事項：複数区間でのモーダルシフトの実施により、効率的な輸送を実現

F-LINE（株）は、食品の輸送について、複数区間でトラック輸送から鉄道・海上輸送へのモーダルシフトを実現した。本取組みにより、トラックによる輸送距離が大幅に短縮され、年間 70%CO2 排出量を削減、トラックドライバーの負荷を軽減した。

モーダルシフトに際しては、現在、鉄道輸送で用いる 31ft コンテナは 7 メーカーを 11 貨物駅で、船舶トレーラーは 15 メーカー、22 港、21 航路を使用し、主要ルート of 効率化、複線化に注力しながら拡大を続けている。また、別荷主の帰り便の空送部分を活用するラウンド輸送も複数区間で実施し、環境負荷低減や安定的な輸送に貢献している。

被表彰者：（株）日陸
功績事項：化学製品の海上輸送へのモーダルシフト実現

（株）日陸（現：NRS株）は、千葉県から北海道への化学製品の輸送について、トラック輸送から海上輸送へのモーダルシフトを実現した。

長距離トラック輸送から海上輸送へ転換する際は、夏期の台風、冬期の爆弾低気圧による遅延や欠航で配車調整に苦労したが、リードタイムを変えることなく、年間 72%の CO2 排出量削減ならびにトラックドライバーの負担軽減を実現した。

被表彰者：（株）ランテック
功績事項：小口混載便の鉄道輸送へのモーダルシフトを実現

（株）ランテックは、宮城県から兵庫県への冷凍混載便の輸送について、トラック輸送から 31ft コンテナを使用した鉄道輸送へ転換し、CO2 削減に貢献した。転換に際しては、各荷主への出荷時間前倒し交渉や、現場作業を工夫して積込時間を短縮することで、出荷量を変えることなく、モーダルシフトを実現した。

被表彰者：住鋳物流（株）
功績事項：電気ニッケル他の海上輸送へのモーダルシフトを実現

住鋳物流（株）は、愛媛県から関東地区への電気ニッケル他の輸送について、トラック輸送から RORO 船を利用した海上輸送に転換した。モーダルシフトによって、CO2 排出量の削減およびトラックドライバーの負担軽減を実現した。

また、過去にモーダルシフト取り組み優良事業者賞に選定された関西地区への輸送は、さらに海上輸送比率（2019 年度 9%→2021 年度 18%）を上げ、環境負荷低減を推進している。

被表彰者：センコー（株）

功績事項：日用品の鉄道輸送へのモーダルシフトを実現

センコー（株）は、埼玉県から大阪府への日用品在庫移送について、トラック輸送から 31ft コンテナを利用した鉄道輸送に転換した。鉄道輸送に切り替えるにあたっては、列車発着時間に合わせて各関係先と積込・荷卸し時間の時間調整に苦勞した。また、輸送荷物がバラ積みバラ卸であること、コンテナ積載重量（8t）とトラック積載重量（13t）が異なることから、日々、配車工夫や物量調整といった効率化を行うことで、安定的な輸送を実現した。

被表彰者：南光運輸（株）

功績事項：紙製品の海上輸送へのモーダルシフトの実現

南光運輸（株）は、福島県から兵庫県への紙製品の輸送について、トラック輸送から海上輸送へのモーダルシフトを実現した。

工場のある福島県から最も長距離トラック輸送を行っている関西地区へ向け海上モーダルシフトを導入し、年間 35%の CO2 削減やドライバーの省力化を実現した。荷主の協力のもと、顧客に直接納入を行うことでさらなる省力化を図った。長距離輸送の削減により、ドライバーの負担軽減（運転時間・拘束時間の削減、容易な年休取得など）も図られ、今後も輸送を拡大していく予定である。

被表彰者：日本通運（株）

功績事項：酒類の鉄道・海上モーダルシフトの同時開始を実現

日本通運（株）は、大分県から京都府への酒類の輸送について、トラック輸送から鉄道・海上輸送への同時モーダルシフトを実現した。

従来、長距離トラックで輸送していたが、CO2 排出量の削減ならびにドライバーの負担軽減を鑑み、荷量を確保するため鉄道・海上輸送を同時展開した。各関係先との手配・調整に苦勞しながら、納品先の手前にストックポイント設置して安定した輸送を確保し、年間 70%の CO2 排出量を削減したほか、ドライバー運転時間を年間 8,000 時間以上削減することに成功した。